

事業名 新芝運河環境整備

(運河の再生 - 水と緑のオアシス)

受賞機関 東京都港湾局港湾整備部計画課
東京都港区街づくり推進部

道路公園課

事業実施期間 昭和56年度～平成12年度

事業費 3,867百万円

事業等の特徴

運河の両側はオフィスビルや高層住宅が建ち並び、東京の都心として稠密な利用がなされている。しかしながら、新芝運河護岸は老朽化が激しく、再整備の要請が高まっていた。再整備にあたって都市環境の改善、人々の利用、整備後の維持管理等について地元の港区と協議を重ねた。具体的には、護岸の耐震性確保のために前出ししたスペースや倉庫等の建て替え等で出現した公共空地を、なるべく植栽等の緑化スペースとし、都市環境の改善と人々の利用に供することとした。また、緑化スペースはバリアフリー化に努めるなどにより都心のオアシスを出現させた。

事業の概要と利用者等の評価

新芝運河はJR田町駅から南東へ徒歩5分のところにあり、南北約1.6kmにおよぶ運河の両側には、現在ではオフィスビルや高層住宅などが建ち並んでいる。この地域は大正から昭和の初期にかけて埋立が行われ、護岸の老朽化が進んでいることから、昭和56年度から海岸事業として護岸の再整備を行っている。再整備にあたっては、運河環境の改善を図る目的で港区と協議をし、護岸本体を整備した後、港区が護岸背後の管理空間を利用して、遊歩道や植栽など周辺環境に配慮した施設の整備を進めている。

施設の管理については東京都港湾局と港区とが管理協定を結び、護岸本体の管理は港湾局、日常の管理は港区が行っている。

利用者等の評価について

・計画、設計及び施工のプロセスに対する評価

新芝運河を含めた港区の運河沿いは、「港区街づくりマスタープラン」において、緑と水の骨組みのなかで、「芝浦・港南水の軸」として位置づけられている。東京都の海岸事業で整備した護岸上部を利用して、港区は「水と緑の散歩道」として緑地整備を進めている。

整備に際しては、倉庫等の建替えに伴う公開空地

を利用して運河沿い緑地へのアクセスを確保するとともに、スロープを設置してバリアフリーとなるよう配慮している。

また、新芝運河の北側に位置する竹芝橋から香取橋間の遊歩道では、照明設備として10基のガス灯を設置して運河沿いの景観の改善を図っている。

・事業完了後、施設等の評価

新芝運河は田町駅に近く、近隣に大学や多くのオフィスビルが建ち並んでおり、運河の水と遊歩道の緑は多くのビジネスマンや学生の目を潤している。

遊歩道は、散歩やジョギング等に利用されるほか、昼食や休息などの場として、地域住民や地域で働く人々の憩いの場として利用されている。ベンチなどの休息施設と、季節を感じられる樹木で整備された遊歩道は、都市の中に水と緑のオアシスをつくりだしている。

・評価の把握手法の具体的内容

新芝運河の環境整備は、港区では「新芝運河沿緑地」の名称で整備しており、港区田町近辺の散歩道・休憩場として多くのホームページで紹介されている。

また、地元の企業や大学等からなる「運河を美しくする会」と港区とが連携して、遊歩道施設や運河を利用したイベントなど、運河沿緑地の活用方法について検討している。

審査委員会委員の意見等

- ・護岸整備に加え、人々が水辺に親しめる空間を演出した点が評価できる。
- ・老朽化した運河筋を水と緑の親水空間として再生し、都市生活者に潤いを与えていることは評価できる。
- ・都と区の連携による親水護岸の試みがなされた。事業化にあたっては、区の総合計画に位置づけられており、また、地元企業との連携などが評価できる。なお、評価の方法が明確でないことが惜しまれる。
- ・緑化スペースについて、できれば人工的空間の中でも「ほっと」息を抜けるようなデザインに配慮してほしい。



整備前



整備後